

呼吸器内科

毎週月曜日・午前中

喘息・COPD専門外来



はじまりました

喘息やCOPD(慢性閉塞性肺疾患)は専門医による適正な診断と治療によって症状の改善が期待できます。

このような症状はありませんか？

- 咳が長く続く
- 息切れする
- ゼーゼーと音が出る
- 夜間や明け方に咳が出る など



対象となる方と治療のご紹介

【喘息の方】

吸入薬などの治療を続けても症状がよくなるしない発作を繰り返す喘息の方など。必要に応じて注射薬も検討します。

【COPDの方】

呼吸リハビリ、栄養指導、吸入薬の使い方の確認などを組み合わせて治療します。

また舌下免疫療法を希望される方、長引く咳や息切れでお困りの方、まだ喘息やCOPDと診断されていない方もお気軽にご相談ください。

受診の方法

はじめての受診であっても直接「喘息・COPD専門外来」にご予約のうえ、おかけください。他の医療機関に通院中の方は、これまでの治療内容を確認するため、可能な限り紹介状をご持参ください。※かかりつけ医のない方は、紹介状がなくても受診可能です。

ご予約

☎ 04-7099-1111へ

受付 8:00~17:00 (第3土曜・日曜・祝日除く)



呼吸器内科
部長代理
永井 達也

永井医師より患者さまへメッセージ

「治療を続けているのに症状が良くならない」「咳が長引いている」「喘息やCOPDかもしれない」とお悩みの方は、お気軽にご相談ください。

診断から治療の見直し、注射薬や舌下免疫療法、呼吸リハビリテーションなど、一人ひとりに合った治療と一緒に考えていきます。

音楽会

日時 2026.9.12(土) 15:00~

会場 亀田総合病院 Kタワー1階 ロビー

演奏 三上亮さん (ヴァイオリニスト)

山本樹生さん (ピアニスト)



館内での水分補給

熱中症や脱水症状を防ぐため、受診の待ち時間中も積極的に水分補給を行しましょう。亀田クリニックは原則飲食禁止ですが、水やお茶に限り、ふた付きのペットボトルや水筒などでお飲みいただけます。ただし、歩きながらの飲用やこぼれやすい容器の使用はご遠慮ください。



常温の飲み物 も販売中です

お薬を服用したい方や、冷たい飲み物が苦手な方はご利用ください。

1階 マーラマ(水のみ)・

3階 エレベーター付近 自動販売機(水とお茶)

ひらけ！
こどもアートの
作品募集

9/30(水)まで
詳細はこちら

防災豆知識

津波フラッグ

海水浴中に赤と白の旗を見たら、津波の危険が迫っています。すぐに海から離れ、高い場所へ避難してください。

この旗を見たら

すぐに にげて





第3話 脳血管内治療とは？

今回は脳血管内治療(脳脊髄血管へのカテーテル治療)の概要についてお話しします。

脳の病気の治療と聞くと、「頭を開ける手術」を思い浮かべる方が多いかもしれません。もちろん、現在でも開頭手術が必要な病気はあります。一方で、頭を開けずに、血管の中から脳の病気を治療する方法も大きく進歩してきました。それが「脳血管内治療」です。

脳血管内治療では、カテーテルという細い管を使います。多くの場合、足の付け根や手首の血管からカテーテルを入れ、血管の中を通して、首や脳、場合によっては脊髄の血管まで進めていきます。

「脳の治療なのに、足や手首から入れるのですか」と驚かれることがありますが、血管は全身でつながっています。そのため、離れた場所から入ったカテーテルでも、血管の中を進めることで脳の近くまで到達することができます。

この治療の大きな特長は、体への負担が比較的小さいことです。傷はカテーテル入口の刺し傷のみですので、高齢の方や体力に不安のある方にも選択肢となる場合があります。ただし、ここで重要なのは「傷が小さい＝簡単」ではないということです。慎重な判断と熟練の技術が必要なのは、他の手術と同じです。

脳血管内治療が行われる代表的な病気には、脳梗塞、脳動脈瘤、頸動脈狭窄症、動静脈シャント疾患などがあります。

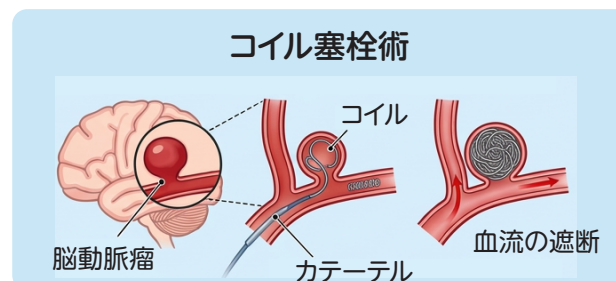
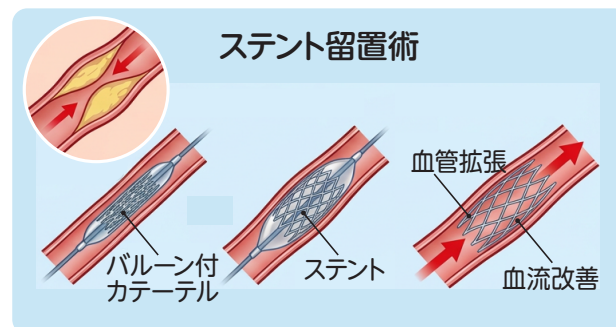
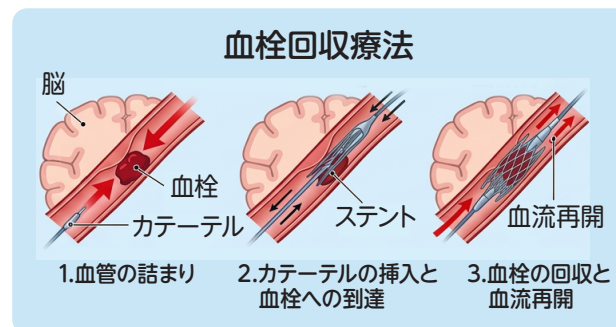
脳梗塞では、脳の太い血管に詰まった血のかたまり、つまり血栓を取り除く「血栓回収療法」があります。それに関連して、首の血管が動脈硬化で細くなる頸動脈狭窄症では、ステントという金属の筒を使って血管を広げる治療を行うことがあります。脳動脈瘤では、血管にできたこぶの中にコイル(極細の金属線)を入れて

破裂/再破裂を防ぐ「コイル塞栓術」などがあります。

このように、同じ「カテーテル治療」でも、病気によって目的や治療内容は異なりますが、いずれも、血管の中から脳脊髄を守る治療と言えます。

ただし、すべての患者さんに脳血管内治療が適しているわけではありません。同じ病名でも、血管の形、病気の場所、発症からの時間、年齢、全身状態によって、最適な治療は変わります。開頭手術の方がよい場合もあれば、薬で経過を見る方がよい場合もあります。

大切なのは、「新しい治療だから必ずよい」、「切らない治療だから必ず安全/簡単」と考えるのではなく、その方に合った治療を選ぶことです。脳血管内治療は、脳卒中治療の可能性を大きく広げた方法です。正確な診断と慎重な判断があってこそ、その力を発揮します。



今回は、脳血管内治療の中でも、脳梗塞に対して行う「血栓回収療法」について、もう少し詳しくお話しします。

